

1 学校教育目標 めざせ！友だち400人「やる気いっぱい」「笑顔いっぱい」「元気いっぱい」	2 本年度の重点目標 ・5役会議とプロジェクトリーダーの連携による協働体制、職員の資質向上 ・新しい教育課程に対応できる教員の資質向上を校内研を中心に進める。 ・学校経営、学級経営の中に、特別支援教育の視点を位置づけ、UDの支援に立った授業・環境・組織づくりを行う。 ・心の教育に関しては、職員が児童と関わる時間を確保し、いじめ防止の取組や個別指導の充実を行い、児童の心の安定を図るような取組を進める。 ・あいさつ運動や集団登校の取組は、家庭・地域・PTAと連携を強化し、児童にその価値に気づいてもらえるような取組や働きかけを行う。
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動【やる気】【開かれた】	●志を高める教育	道徳の授業の推進を図る。 夢や目標を持たせる意識の向上をめざす。	・道徳の授業実践や学校行事、体験活動を「夢や目標に向かって努力しようとしている」の好意的評価を80%以上にする。	・内容項目「希望と勇気、努力と強い意志」「伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の授業実践をそれぞれ1回以上行う。 ・学校行事、体験活動ごとに個人の目標を立て実践、ふり返りをさせる。	やる気	山上
	●学力の向上	学習指導の充実 基礎内容の定着 読書活動の充実 家庭学習の充実	・学習状況調査の到達率を県平均と同等にする。 ・児童アンケート「できる」「わかる」の好意的評価を80%以上にする。 ・図書貸出し数の学年目標を80%以上の児童が達成できる。 ・家庭学習の目標時間を80%以上の児童が達成できる。	・全国、県学習状況調査の結果を分析・活用し、学習指導に生かす。 ・国語タイムと算数タイムを計画的に行い、基礎的内容の定着を図る。 ・おすすめの本50冊を含んで低学年120冊中学年100冊高学年80冊の年間貸し出しを目標に取り組ませる。 ・家庭学習のノートなどに取り組んだ時間を記録させ目標時間を意識させる。また、家庭への啓発を行う。	やる気	小國
	●地域人材を活用した教育活動	地域人材の積極的活用による教育活動の充実	・児童アンケートにおいて、郷土への愛着や地域の方への感謝の気持ちをもつ児童を90%以上にする。 ・職員アンケートの「地域人材を活用したカリキュラム開発」と「地域の方への感謝の気持ちをもつようなふり返り」項目において、好意的評価を90%以上にする。	・郷土への愛着や感謝の気持ちを意識した事前指導、活動、まとめ、ふり返りを行う。 ・地域人材を活用したカリキュラムを、全学年で年間40回以上計画的に実施する。 ・児童が地域の役に立つような活動を年間6回以上行う。	開かれた	熊本
②						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動【笑顔】	●心の教育	道徳教育、人権教育の充実 ほめて育てる学級経営の推進	・児童アンケートの「相手の気持ちを考えて行動している」の好意的評価を90%以上にする。 ・児童アンケートの「友達や先生からほめられたり励ましてもらったりしている」の好意的評価を85%以上にする。	・人権集会、平和集会を行い、学級のなかよし目標を決めたり、平和学習の発表をしたり、読み聞かせをしたりして児童の人権意識を育む。 ・教育活動の中で、ほめる(認める)過程を大切に、ほめる(認める)機会を増やす。	笑顔	山崎
	●いじめの問題への対応	いじめを許さない体制づくり 教育相談の充実	・児童アンケートの「学校に行くのは楽しい」の評価を90%以上にする。 ・児童アンケートの「先生は話をしっかり聞いてくれる」の評価を90%以上にする。 ・「心のアンケート」を実施し、教育相談につなげる。 ・いじめの早期発見と早期対応体制の充実	・Q-Uを活用した児童の実態把握を行う。 ・「心のアンケート」を年1回、いじめに関するアンケートを年2回実施し、いじめの未然防止につなげる。 ・年に1回の教育相談週間の時間を確保し、子どもの困り感に対応する。 ・「心のポスト」を設置したり、2ヶ月に1回「先生あのねカード」を実施したりして、困り感のある児童が相談しやすい環境を整える。	笑顔	淵上
	○一人一人のニーズに対応した個別指導の充実	特別支援教育の充実 職員の意識の向上 要支援児童への支援体制の確立	・特別支援教育に関わる研修を計画・実施し、職員の意識を高め、対応スキルを向上させる。 ・「個別の支援を必要とする児童」の情報を共有し、支援体制を充実させる。 ・教育相談会を開催し、情報を共有し、支援方法をチームで考える。 ・ケース会議や就学支援を適宜開催する。	・特別支援教育に関する研修会を年3回以上実施する。 ・教育相談会を月1回以上定期的に開催する。 ・金曜日の午後さんSUNミーティングを実施し、教育支援員も含めて情報を共有し、支援体制を考える。 ・適正な就学支援を行うために、アセスメントを実施したり、専門機関と連携したりして、客観的に実態を捉える。	笑顔	神近

③						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動【元気】【安心・安全】	●健康・体づくり	運動習慣の定着 衛生習慣の確立 食習慣の改善	・「体力・運動能力調査」の結果の活用 ・体育的行事の推進と運動の奨励 ・児童アンケート「手洗い、うがいをきちんと行う。」という評価を90%以上にする。 ・全学級で食育の授業に取り組み、食に対する興味・関心を高め、望ましい食習慣の形成に努める。	・体力・運動能力調査の結果を分析し、種目を限定してスポーツチャレンジに取り組む。 ・学習カードを活用した体育の学習を推進する。また、水泳大会やマラソン大会を計画し、実施前には水慣れ教室やマラソンタイムにも取り組む。 ・1日に1回は外に出て遊ぶように声をかける。 ・給食前や掃除の後など、放送委員会や保健委員会が全校児童に呼びかけ、手洗いとうがいを実施する。 ・学級で「もぐもぐタイム」を取り入れ、無言で食べる時間を確保することで食べ残しを減らす。 ・年1回、学校栄養職員と連携して、各学年の発達段階に応じた食に関する授業を全クラスで実施し、望ましい食習慣を身につけさせる。	元気	吉田
	○生徒指導・安全教育	あいさつ・無言掃除・廊下歩行の充実 生活指導の充実	・児童アンケート「あいさつ・返事がよくなる」を、90%以上にする。 ・「無言掃除ができる」を90%以上にする。 ・「移動教室は並んで、無言で移動できる」を90%以上にする。	・生活・美化委員会を中心に、各委員会ごとや学級ごとの「あいさつ運動」を行い、児童の意識を高めていく。 ・無言掃除を徹底させるために、掃除のやり方も含めた臨場指導をしていく。 ・給食当番や特別教室への移動は、学校の決まりにそって、2列に並んで無言で指導するように指導する。 ・生活目標のふり返りを定期的に行い、意識づけを図る。 ・部会や職員会議などで出された問題行動や事案について話し合い、共通理解を図る。	安心・安全	益田
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・職員の働き方改革の推進	業務の効率化と業務改善	・「計画的・効率的に業務を進めている。」と自己評価する職員90%以上をめざす。 ・時間外自発勤務時間(教諭の平均時間)を29年度より減少させる。	・「嬉小の手引き」を活用した会議、年間計画を見通した効率的な働き方を呼びかける。また、大きな業務の時は、早めの提案を行い、見通しを持ってもらう。 ・毎週水曜日の定時退勤推進日を実行する。毎月第1月曜日の嬉野市定時退勤日、第3水曜日の県下一斉定時退勤日を電子行事黒板に赤で提示し、達成率を背面黒板に書く。	教頭	教頭

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目